



2022年3月期（第46期）

決算説明資料

2022年5月24日
株式会社フォーカスシステムズ
（証券コード：4662）

- 1 2022/3期（第46期）決算 P. 3
- 2 2023/3期（第47期）業績予想 P.18
- 3 <ご参考> トピックス P.21
- 4 <ご参考> 当社の概要 P.26

1 2022/3期（第46期）決算

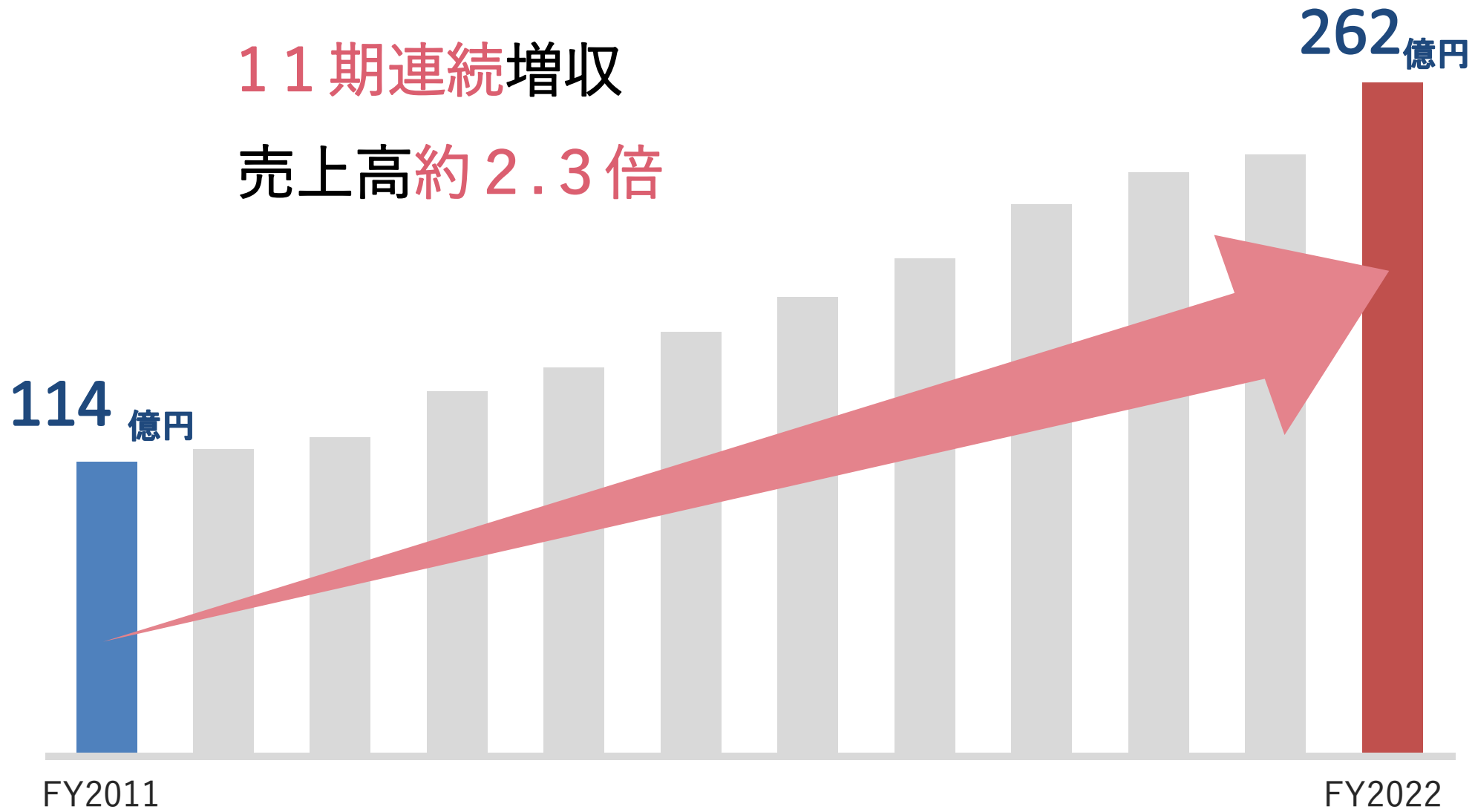
売上高・各利益とも前期・予想を上回って着地

- 新規案件が利益率を押し上げ
- 大型案件の獲得が成長をけん引
- プロジェクト管理の徹底によるリスク最小化で全体を下支え

(単位：百万円)

	FY2021 実績	FY2022 計画	FY2022 実績	前期比		計画比	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	23,485	24,500	26,278	2,792	11.9%	1,778	7.3%
営業利益	1,450	1,480	1,640	190	13.1%	160	10.8%
経常利益	1,469	1,500	1,600	131	9.0%	100	6.7%
当期純利益	1,025	1,030	1,066	41	4.0%	36	3.65%

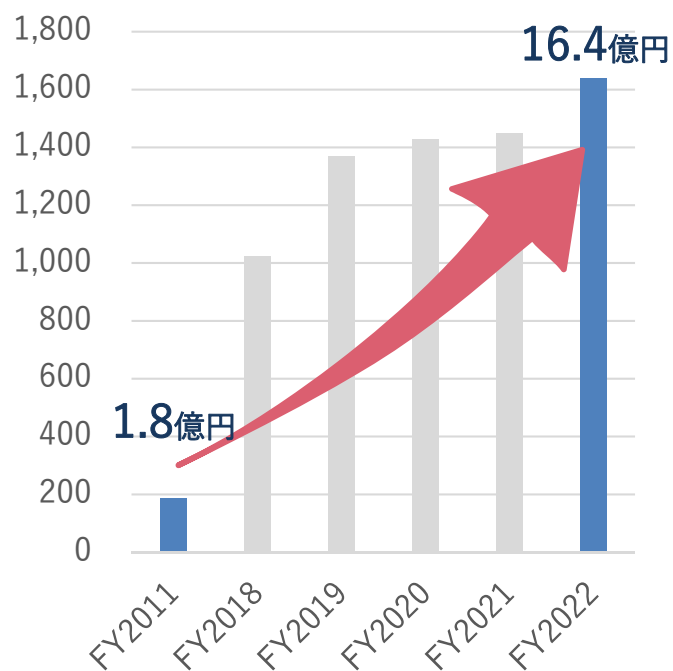
11期連続増収
売上高約2.3倍



5 期連続増益

営業利益

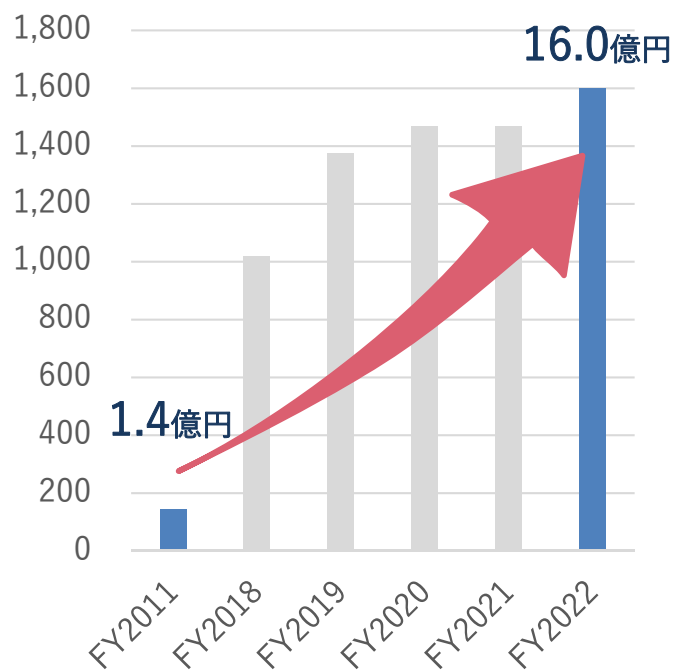
(単位：百万円)



約 9 倍
(FY2011比)

経常利益

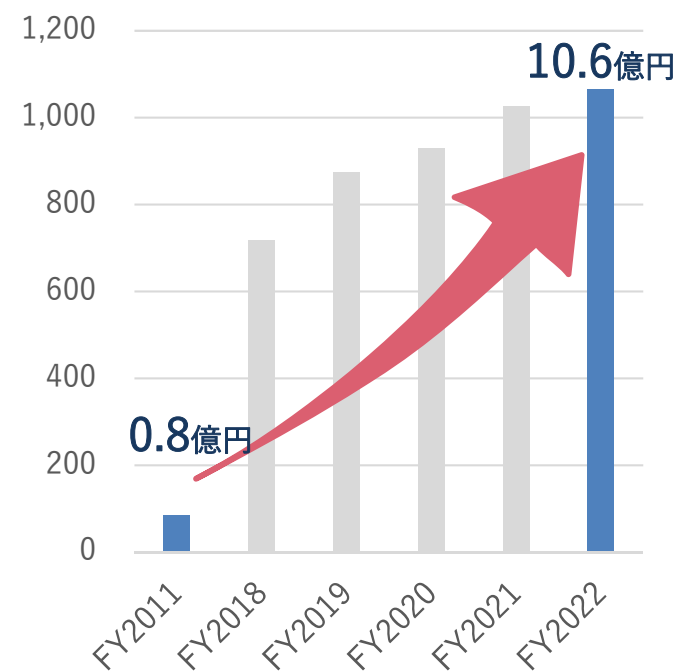
(単位：百万円)



約 11 倍
(FY2011比)

当期純利益

(単位：百万円)



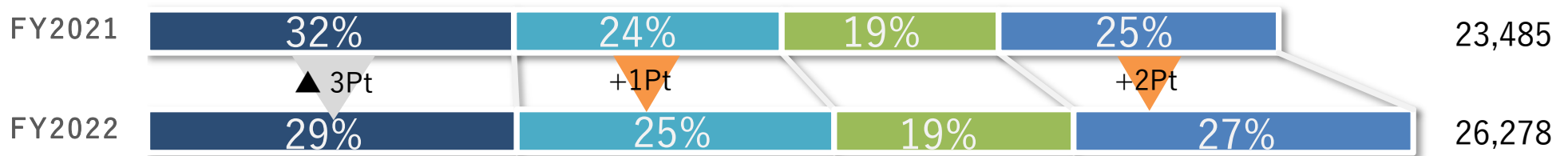
約 12 倍
(FY2011比)

売上は +2,792百万円（前年度比） 利益は +382百万円（前年度比）

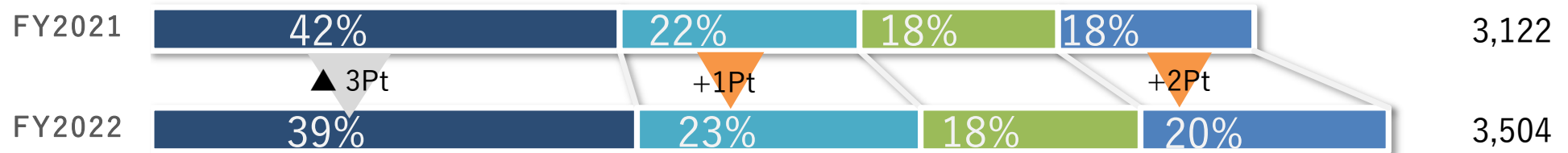
セグメント別の構成比では、売上高・利益ともにエンタープライズが1Pt、イノベーションが2Pt上昇

（単位：百万円）

セグメント別売上高の構成比



セグメント別利益の構成比

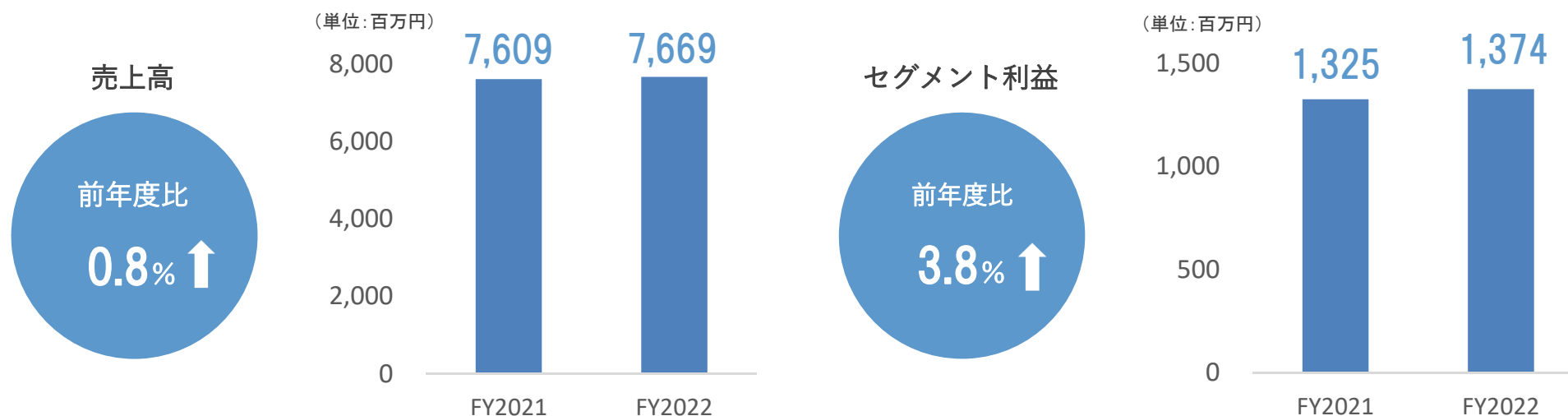


公共関連

主に官公庁及び地方自治体を最終ユーザーとする社会インフラ基盤に係るシステムの設計・製造からシステム稼動後の運用・保守

< 増収増益 >

新規案件獲得等により大型案件反動減を吸収、第4四半期に成長基調へ。



■ 既存案件の堅実な進捗がセグメント業績の下支えに貢献。

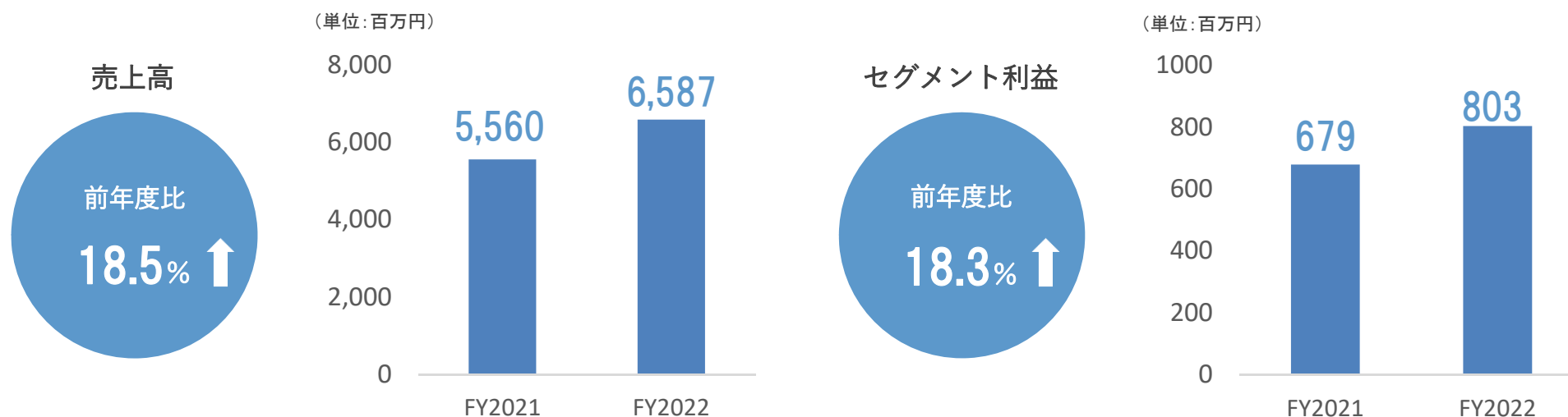
例) 電子申告システム、マイナンバー関連、自動車登録システム、貿易流通システム、官公庁会計システムほか

エンタープライズ

主に法人企業の基幹業務システム・Webシステムの開発、ネットワーク・インフラの設計・構築、RPAソリューション、付随する運用・保守、ICTに係るコンサルティング

<増収増益>

ネットワークインフラと基幹業務システムにより、既存新規とも成長加速。



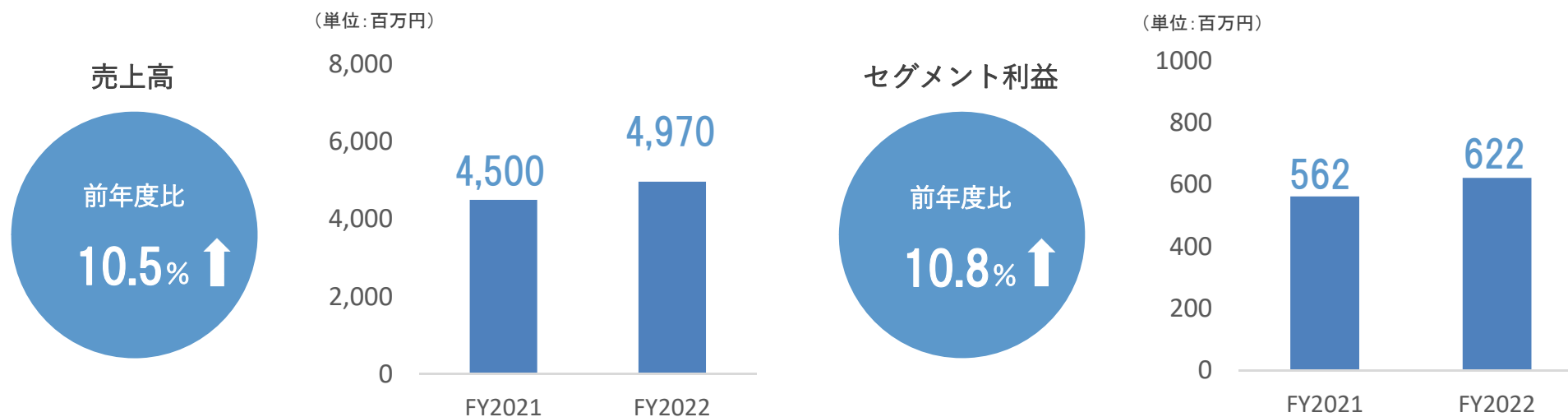
- クラウド化とクラウドサービスへの需要が顕著。事業部間連携により受注機会が増加。
- RPAと新たなセキュリティソリューション導入も事業拡大に寄与。

広域ソリューション

主に東京・名古屋・大阪地域における、通信制御システム開発、組込みシステム開発、民間企業・行政機関向けシステム開発、AIソリューション、付随する運用・保守、ICTに係るコンサルティング

< 増収増益 >

既存分野はプロジェクト管理で安定成長を堅持、新規入札案件の獲得に成功。



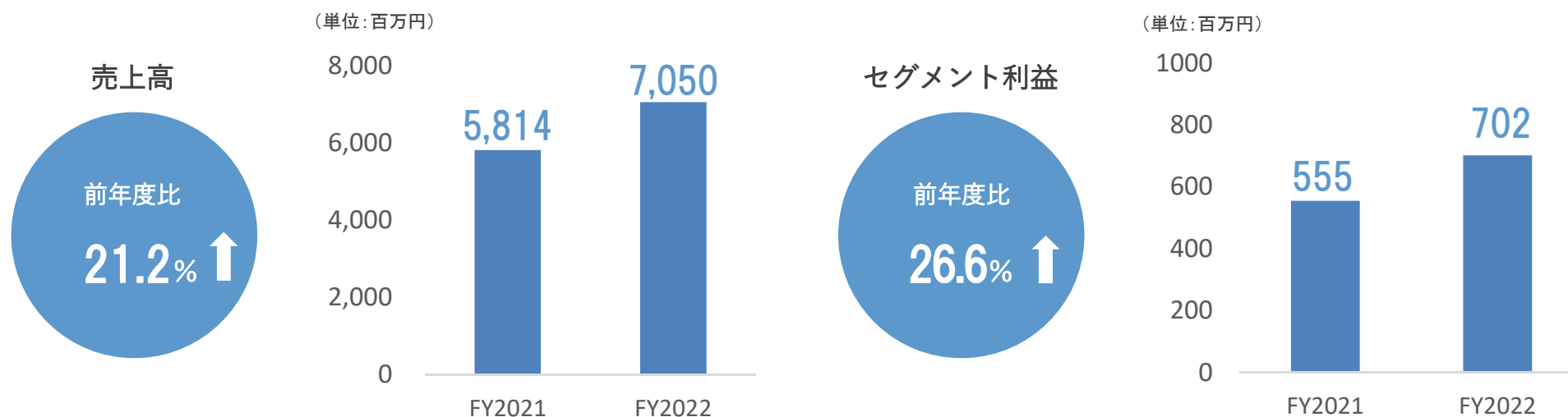
- 主に東京・大阪で獲得した新規案件が業績に寄与。
- 事業セグメント全体でローコード開発案件等も積極的に組入れ、商機を拡大。

イノベーション

主にインフラ基盤設計・構築、メインフレーム構築、システム開発、付随する運用・保守、自社製品の製造、IoTソリューションの提供

<増収増益>

インフラ設計構築が堅調な伸びを維持し、新規の大規模案件獲得で成長加速



- 主要顧客の分社化に対応することで、ビジネス機会の最大化に注力し、事業基盤を一層強化。
- 情報セキュリティに関わる自社暗号化製品等の販売好調が成長に寄与。

(単位：百万円)

	前事業年度	当事業年度
(資産の部)		
流動資産	9,812	10,869
固定資産	7,995	12,503
有形固定資産	3,505	3,510
無形固定資産	145	155
投資その他の資産	4,344	8,836
資産合計	17,808	23,372
(負債の部)		
流動負債	4,571	5,277
固定負債	2,172	3,330
負債合計	6,744	8,608
(純資産の部)		
株主資本	9,225	9,869
資本金	2,905	2,905
資本剰余金	2,148	2,158
利益剰余金	4,527	5,156
自己株式	△354	△350
評価・換算差額等	1,837	4,894
純資産合計	11,063	14,764
負債純資産合計	17,808	23,372

前事業年度末に比較し5,564百万円増加

(主な増加理由)

- ・ 投資有価証券の増加 4,439百万円
- ・ 売掛金及び契約資産の増加 613百万円

前事業年度末に比較し1,863百万円増加

(主な増加理由)

- ・ 繰延税金負債の増加 1,298百万円
- ・ 買掛金の増加 332百万円
- ・ 長期借入金の増加 219百万円

(主な減少理由)

- ・ 社債の減少 360百万円
- ・ 1年内償還予定の社債の減少 150百万円

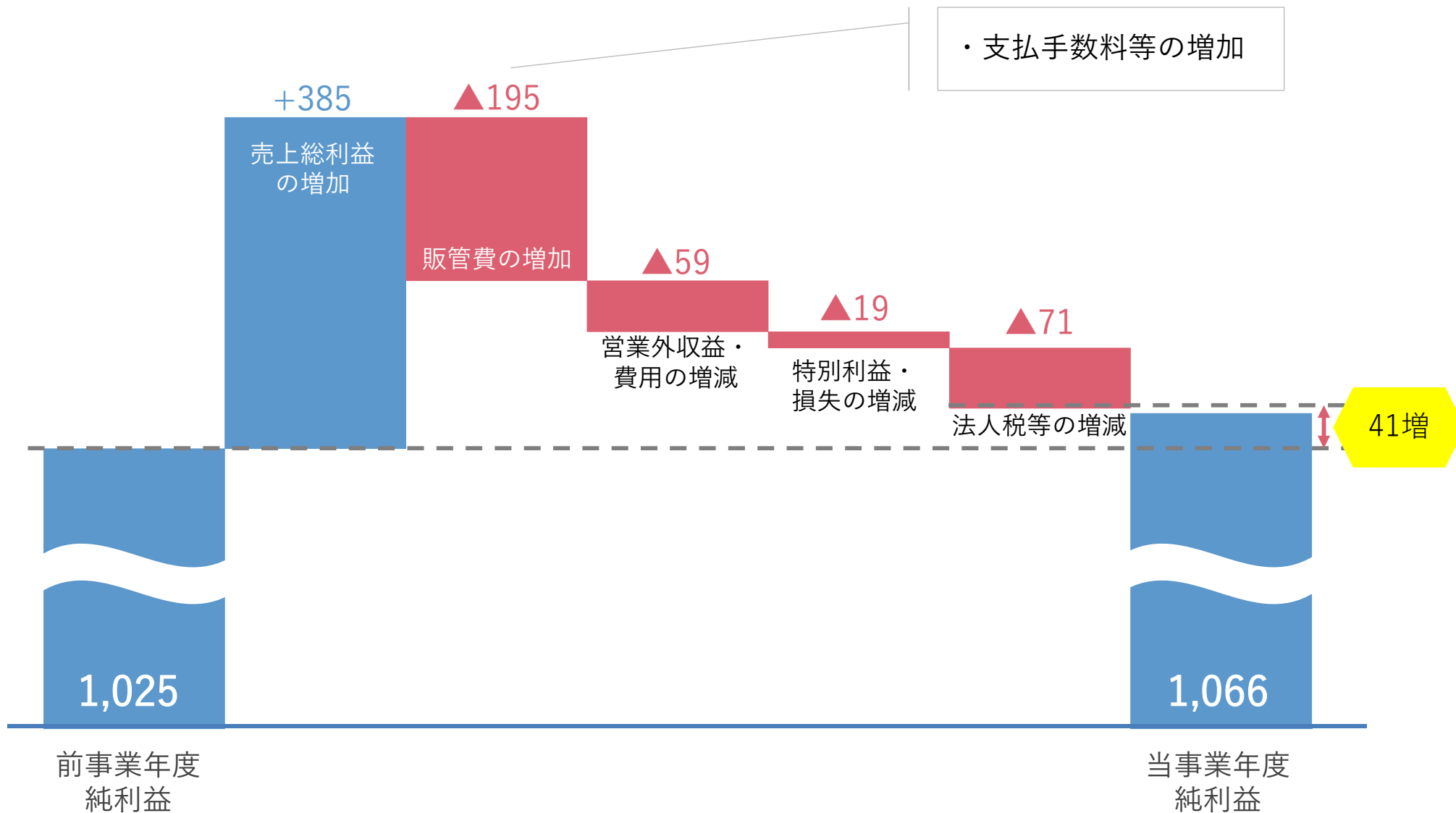
前事業年度末に比較し3,700百万円増加

(主な増加理由)

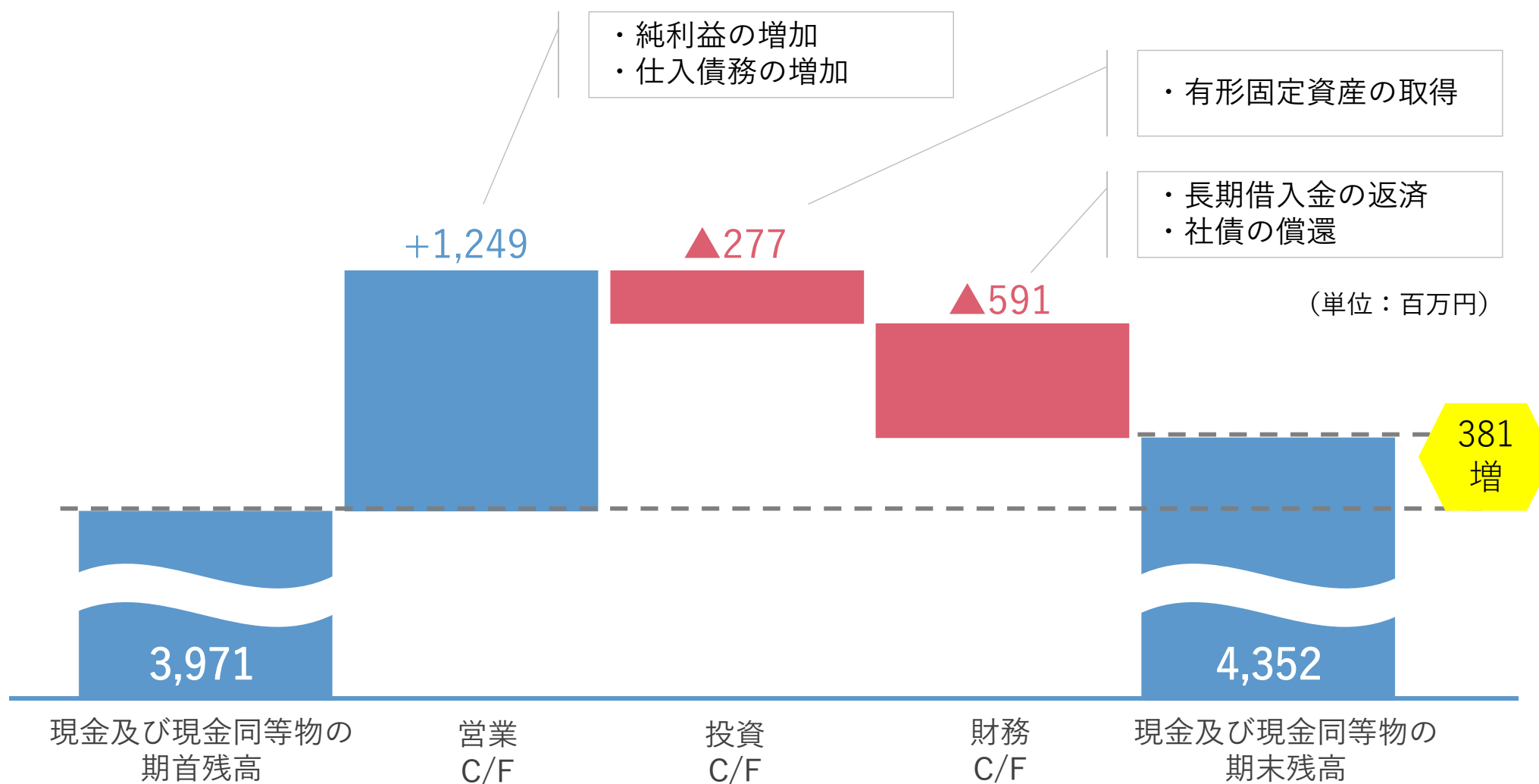
- ・ その他有価証券評価差額金の増加 3,056百万円
- ・ 繰越利益剰余金の増加 629百万円

経常利益は前年比 9 %、純利益も前年比 4 % 増加で着地

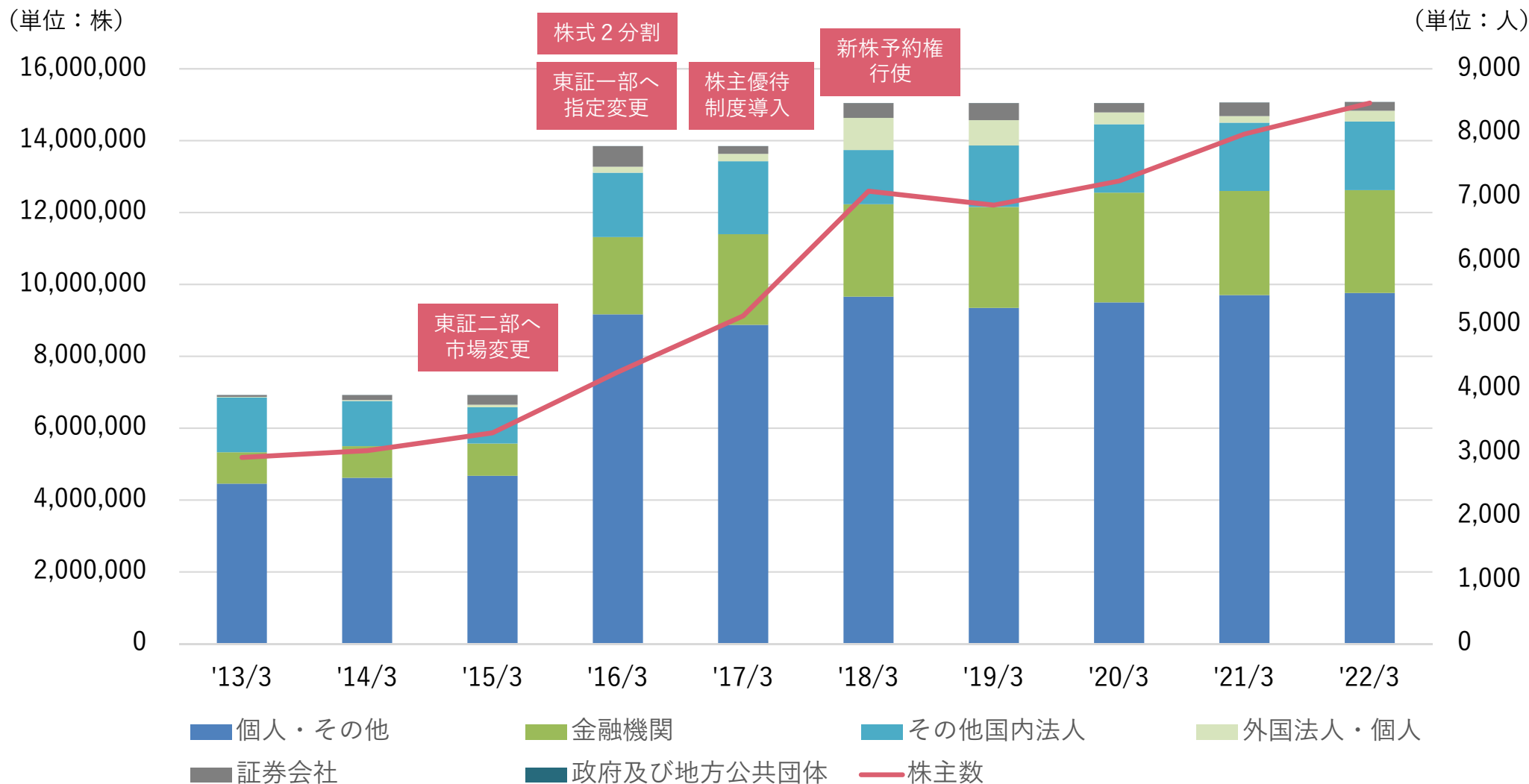
(単位：百万円)



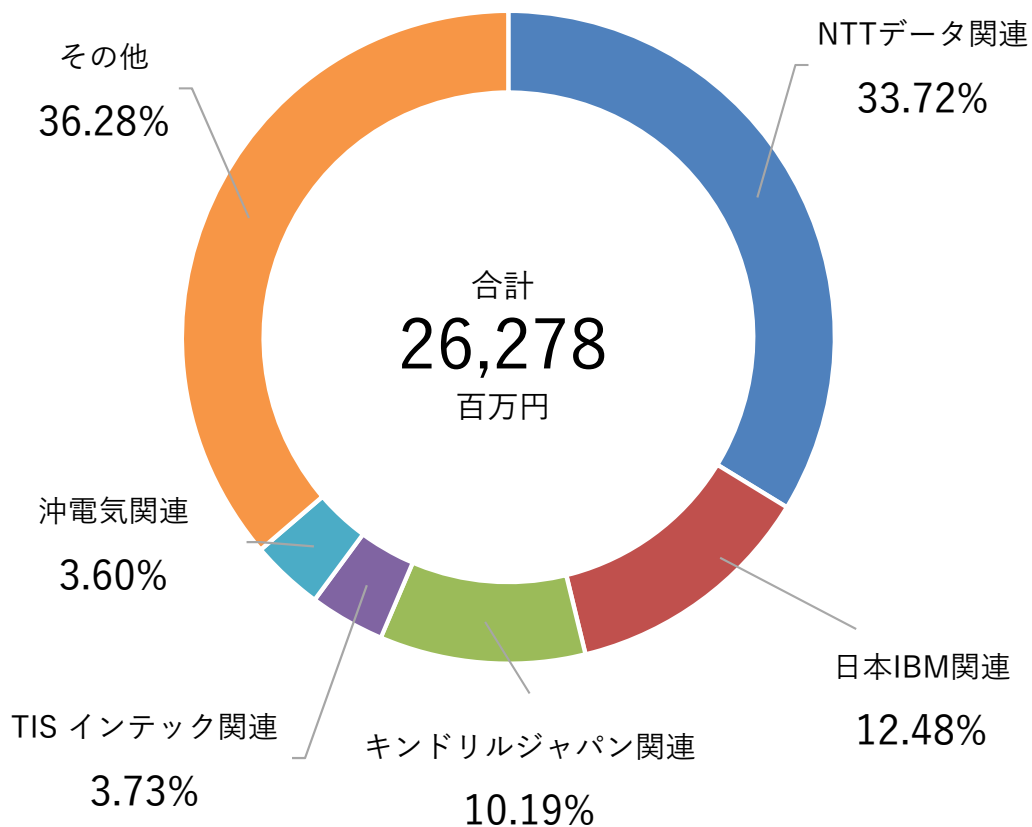
営業活動・設備投資・返済等が順調に進み、安定経営を継続



- 2022/3末の株主総数は8,465人（2021/3末から486名増）
- 金融機関・証券会社の株数が減少した一方で、個人・外国人の株数が増加

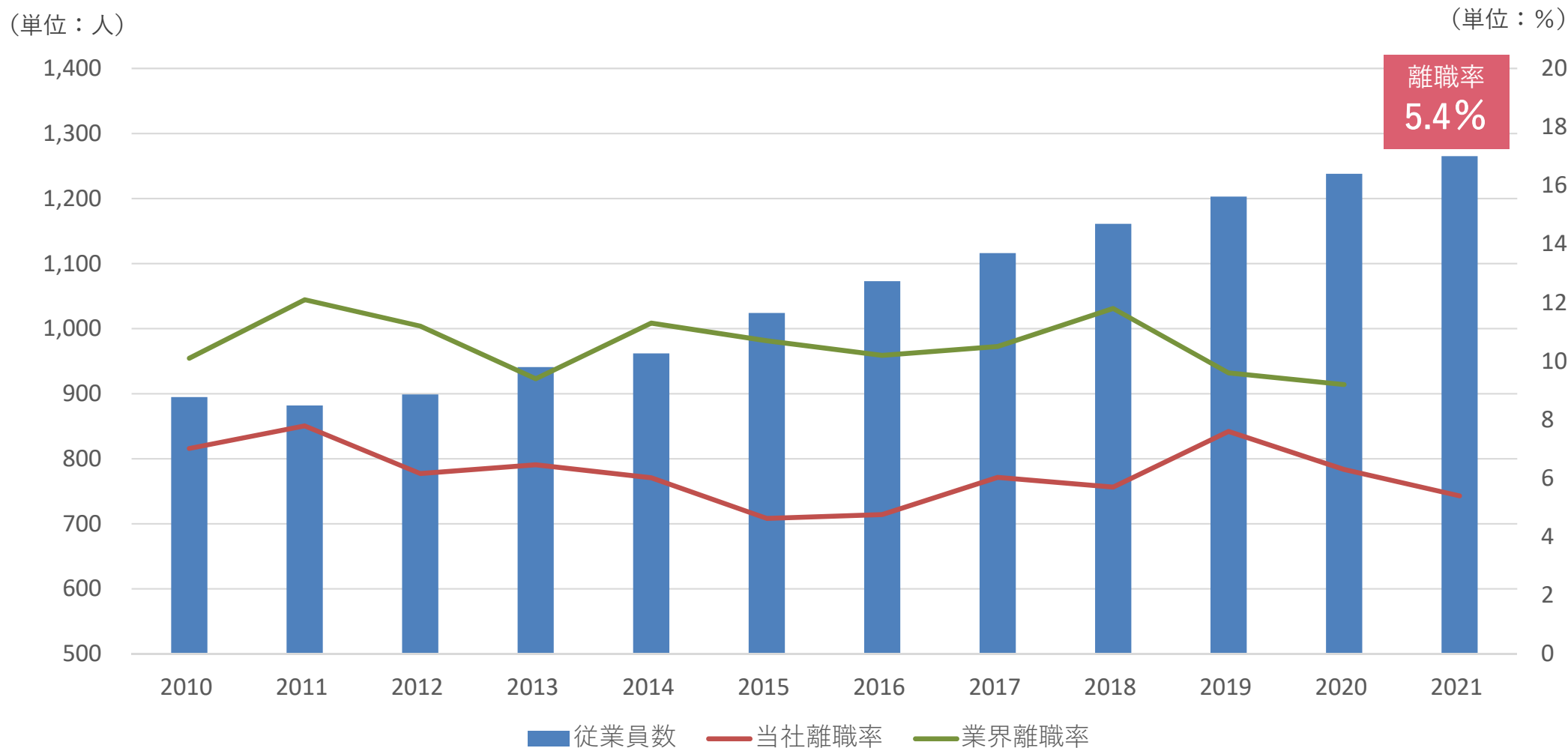


- ✓ 日本IBMの分社化後も、日本IBM・キンドリルジャパン両社との良好なパートナー関係が継続
- ✓ 売上高順に変動はあるものの、新規・既存顧客ともに成長基調



顧客名	FY2022 売上高 (百万円)
NTTデータ関連	8,860
日本IBM関連	3,278
キンドリルジャパン関連	2,678
TIS インテック関連	981
沖電気関連	945
その他	9,533
合計	26,278

- 新卒・中途共に求職者に向けた情報開示を充実させる等、当社の魅力認知策を強化
- 入社後のミスマッチを減らしたことにより、離職率は順調に低下



※業界離職率は「雇用動向調査結果の概要」(厚生労働省)より抜粋

※当社離職率は年度、業界離職率は年を基準としている。

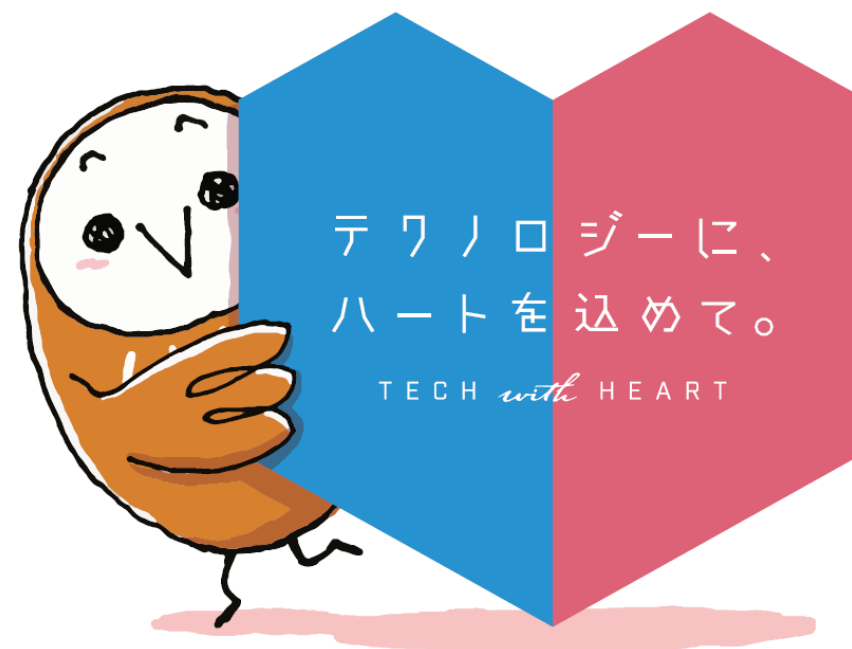
2 2023/3期（第47期）業績予想

- 過去最高の売上高・利益を継続。
- 配当金は「30.00円/株」と、FY2023は3円増配を予定。

	FY2022 実績 (百万円)	FY2023 予想 (百万円)	前期比増減率 (%)
売上高	26,278	27,500	4.6
営業利益	1,640	1,800	9.7
経常利益	1,600	1,820	13.7
当期純利益	1,066	1,220	14.4

	FY2022 実績	FY2023 予想
1株当たり当期純利益 (円)	70.76	80.91
1株当たり配当金 (円)	27.00 (内訳) 中間配当 5.00 普通配当 20.00 特別配当 2.00	30.00 (内訳) 中間配当 5.00 期末配当 25.00
配当性向 (%)	38.2	37.1

今後とも、ご指導ご支援のほど
よろしくお願い申し上げます。



本資料は、2022年5月13日現在において入手可能な情報及び将来の業績に与える不確実な要因に係る2022年5月13日現在における仮定を前提としております。
実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。
従って、当社として、その確実性を保証するものではありません。

3 <ご参考> トピックス

株主向け情報

2022年3月期（第46期）配当予想の修正
（プライム市場移行記念配当）に関するお知らせ

製品・サービス

希代のシナジー『進化認知科学×音環境分析×IT』で生物多様性保護に貢献
トリの交流計測・分析システム「Dormi-Tori」開発に着手

製品・サービス

ヒューマンホールディングスがクラウドオフリング「RISE with SAP」を採用

株主向け情報

「議決権電子行使プラットフォーム」への参加に関するお知らせ

製品・サービス

ウイングアーク1stとWARPパートナー契約を締結
SVF・SPA・Dr.Sum・Motion Boardの取扱い開始
～企業に欠かせないDX推進・電子帳簿保存法対応の支援を強化～

製品・サービス

国内シェアNo.1のデータ連携ツールを提供開始
「ASTERIA Warp」でデータ利活用を円滑化
～社内の独立データをまとめ、ビッグデータ活用へ～

製品・サービス

東京女子体育大学新体操競技部の教育応援サポーターに
“自ら発信する”東女体新体操部の活動支援へ

製品・サービス

ハイラブル・フォーカスシステムズ・リバネス
3社事業連携で『Project Dolittle (ドリトル)』始動
～多様な動物とのコミュニケーション変革に向けた一歩～

製品・サービス

自社製品

中小フォワーダーをITで支援し貿易物流業界の構造改革へ
貿易 SaaS 製品「Beyond TheBook」を自社開発・販売開始
～フォワーダーと荷主をつなげるクラウド案件管理サービス～

製品・サービス

事業環境の変化に即するニューノーマル時代の拡張型セキュリティ
パロアルトネットワークスとパートナー契約を締結
～広範な製品を提供する付加価値の高いリセラーに～

製品・サービス

AIを用いた新たな脳核医学検査手法の開発に着手
～放射線被ばく線量を軽減し、安全で高精度な医療環境をつくる～

製品・サービス

フォーカスシステムズ、全日本大学女子サッカーの価値向上スポンサーに
JUWFA公式メディアの変革をITで支援
～“学生自らが自助自活サイクルを生み出す”ビジネス創造力と実行力養成も視野～

製品・サービス

聴覚障害者とのコミュニケーションをボーダレス化
～開発アプリ「UniTalker」が会話を可視化し、聴覚障害者の活躍を後押し～

製品・サービス

新型コロナウイルス感染症陽性患者を病院外で初期診断するエックス線診療車を開発
－ 感染防護された診察室とオンライン診療設備を搭載 －

製品・サービス

“IoT機器無充電”の実現を目指す「三次電池」研究開発に進展
～次世代電源の特許出願・実証実験で近づくカーボンニュートラルへの貢献～

製品・サービス

テロロジーの連結子会社テロロジーワークスと脅威ハンティング製品
「ThreatSonar」の販売代理店契約を締結
～高度セキュリティ人材不足をカバーし、経営課題を解決～

製品・サービス

自社製品

より高精度な位置測位を実現する「指向性受信機」を製品化
～フェーズド・アレイ・アンテナ採用、Bluetooth4.xにも対応～

製品・サービス

コロナ禍でも拡販に貢献。営業実績が評価され「intra-mart Award 2021」を受賞！

株主向け情報

株式会社メティスの持分法適用関連会社化に関するお知らせ

製品・サービス

フォーカスシステムズ、大阪府と事業連携協定を締結
～中小企業のDX推進を支援する「大阪府DX推進パートナーズ」に参画～

“未来に向けた取組み”

より広い分野でITを通して携わる取組みについて、当社ウェブサイトで紹介

医療

鳥取大学医学部附属病院形成外科との共同研究

褥瘡（じょくそう）の進行度判断AI

AIを活用し、誰もが簡便に患者の褥瘡（いわゆる床ずれ）進行度を判断できるように支援するシステム

医療

千葉大学医学部附属病院との共同研究

HoloLens 2 を活用した遠隔メンタリングシステム

HoloLens2®（MR機器）を活用し、リアルタイムで現場の情報共有を可能に。
血管造影検査における遠隔指導システム

4 <ご参考> 当社の概要

事業内容	システムコンサルティング 受託開発・保守運用・技術支援情報 セキュリティ関連技術・製品の開発販売など
本社	東京都品川区東五反田2-7-8 フォーカス五反田ビル
事業拠点	東京、大阪、名古屋
資本金	29億円
上場市場	東京証券取引所 プライム市場（証券コード：4662）
従業員	1,265名（2022年3月31日現在）

- 1977 ソフトウェア開発を目的として、株式会社フォーカスシステムズを設立
- 1978 沖電気工業(株)と取引を開始し、電子交換機のソフトウェア開発業務開始
- 1988 日本電信電話(株)（現(株)NTTデータ）と取引を開始し、官公庁向けシステムの受託開発開始
- 1996 日本証券業協会に株式を店頭登録
- 1997 日本IBM(株)と取引を開始し、システム保守・運用／インフラ技術支援業務の受託開始
- 1999 セキュリティ部門の受託開始（情報セキュリティ事業開始）
- 2004 情報セキュリティでの新分野デジタルフォレンジック製品販売開始
- 2015 東京証券取引所市場第二部へ市場変更
- 2016 東京証券取引所市場第一部銘柄へ指定替え
- 2022 東京証券取引所プライム市場へ移行

社会と暮らしを支えるフォーカスシステムズ



 3つのFOCUS1st FOCUSシステム
インテグレーション

情報システムの導入に際し、お客様の業務目的に応じた情報システムの企画・開発から、運用までを総合的に行います。

2nd FOCUS

ITサービス

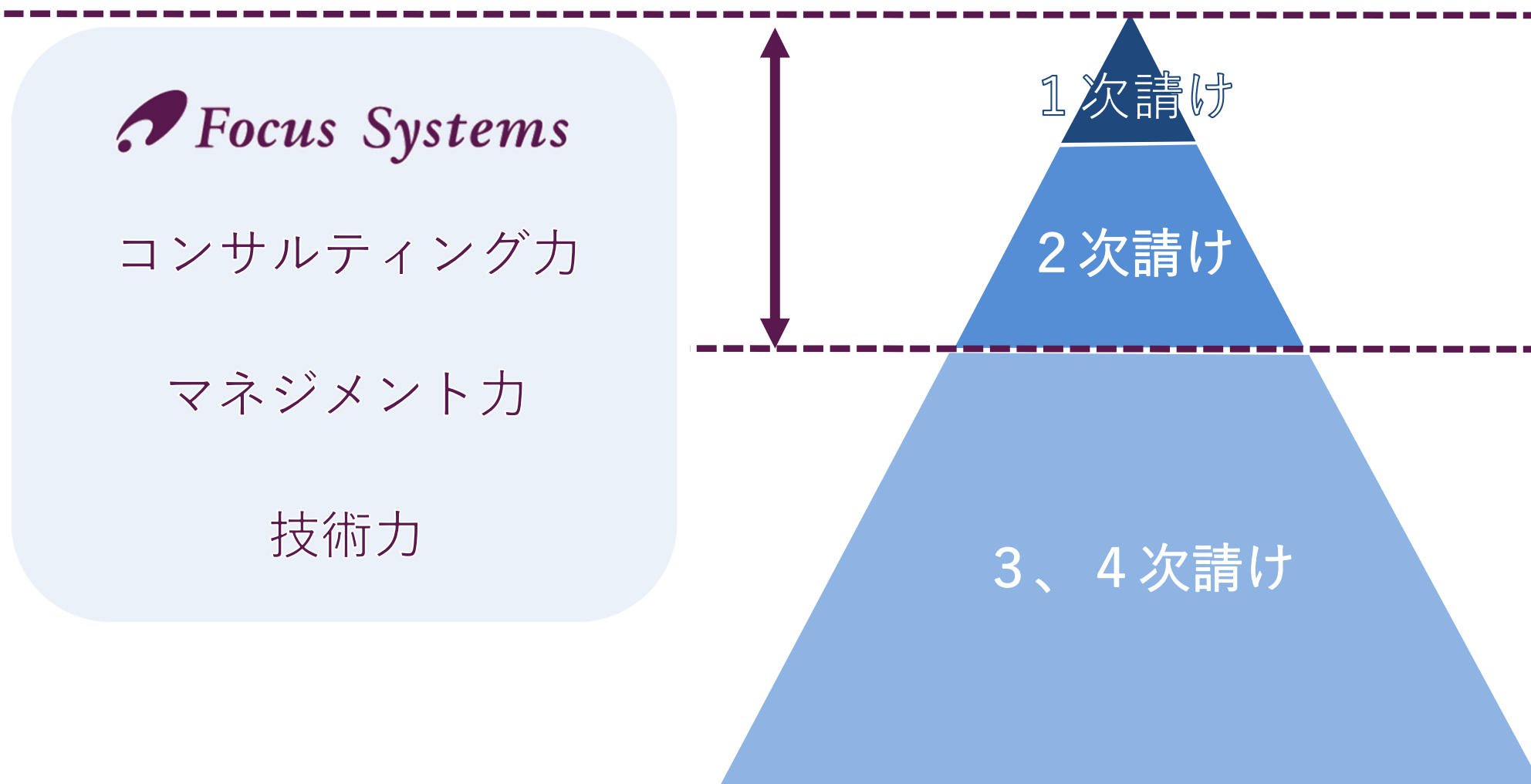
システムの可用性と信頼性を高めるため、インフラ設計・構築や技術サポート、運用サポートを行います。

3rd FOCUS

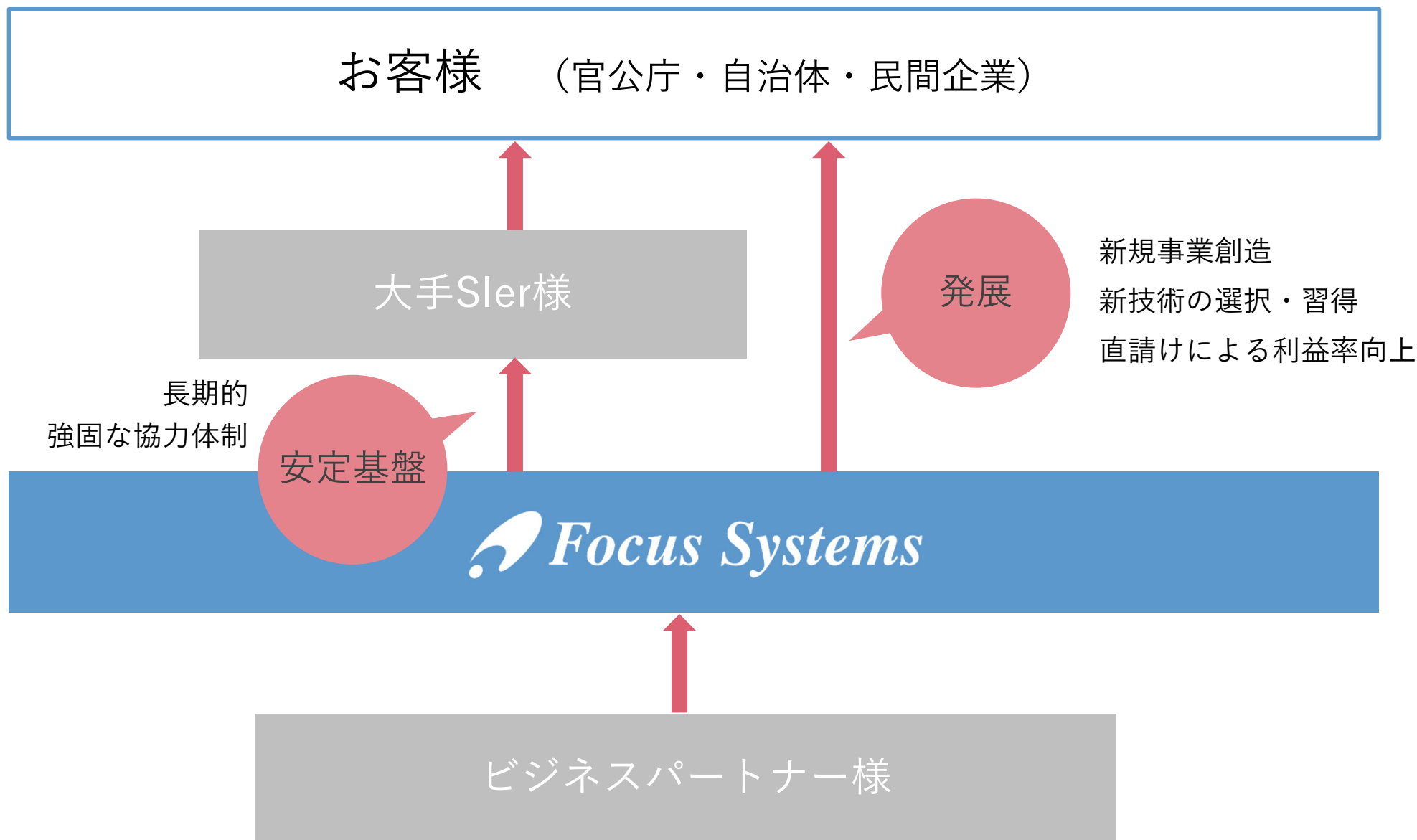
情報セキュリティ

暗号、電子透かしなどの情報セキュリティ技術で「情報リスク」をコントロールします。

- 当社は、独立系のシステムインテグレーター（SI）
- 上流で求められるコンサルティング力から、下流で求められる技術力まで保有



	独立系	ユーザー系	メーカー系
概要	経営・資本の独立性	情報システム子会社 商社/金融の元システム部	コンピュータ会社 ハードウェア会社
長所	幅広く自由な事業分野 培ったものは自社資産	親会社のノウハウ活用 事業基盤が安定	親会社のハード活用 ソリューション提案 事業基盤が安定
短所	すべて自力の経営 顧客&BPの開拓 知的財産の蓄積 経営基盤&財務の強化	専門分野が限定的 事業領域が狭い	親会社の縛り





経済産業省および日本健康会議が共同で優良な健康経営を実践している法人を認定する「健康経営優良法人2022(大規模法人部門)」に選定されました。

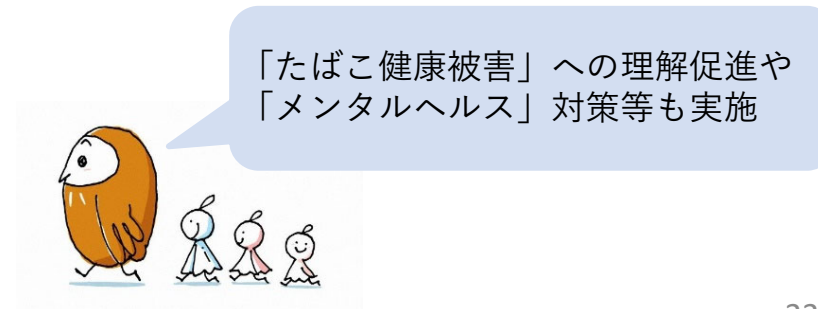
1 部活動支援

・・・社員の健康を促進するため、部活動への活動支援を実施。
現在、9つの部活に約150名が所属。



2 健康管理セミナー

・・・心身のコンディションを整えるマインドフルネス研修や、食生活改善・肩こり腰痛予防セミナーなど、テーマ別のセミナーを実施。



✂️ ワークライフバランス

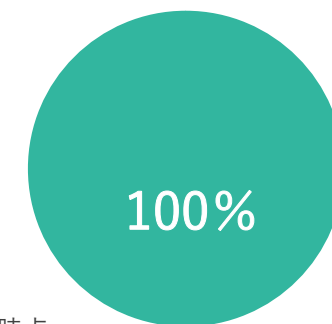
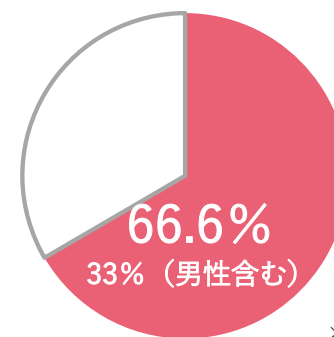
1 短日・短時間勤務制度

…仕事と育児・介護の両立を支援する制度。
 短日（週3日）、短時間（1日5または6時間）が選択可能。
 ※育児は小学校3年生まで、介護は介護事由がなくなるまで可。
 ※同制度上で、フレックス制度も適用可。

くるみん（次世代育成支援）
認定

育児休業あけ短日・短時間
勤務制度利用率

育児休業取得した社員の
復職率



※2022年3月末時点

2 ジョブリターン制度（再雇用制度）

…ライフイベント（結婚・出産・育児）や
 キャリアアップ（留学・転職）を目的として退職した場合、
 10年以内であれば再雇用OK。

3 フレックス制度

…自分のライフスタイルに合わせた働き方を支援する制度。



ダイバーシティ

1 職域創成

- ・・・障がい者雇用の新たな職域創成を目指し、水耕栽培による野菜の生産業務を2015年に開始。現在は、事務系職域の開拓も推進。（「障がい者雇用率制度への対応実績推移」は次頁参照）活動の様子は、当社ブログ「[障がい者広報\(フォーカスNAVI内\)](#)」で随時配信。



フォーカスNAVI
障がい者広報



https://magazine.focus-s.com/category/news/pwd_pr/

2 女性社員交流会

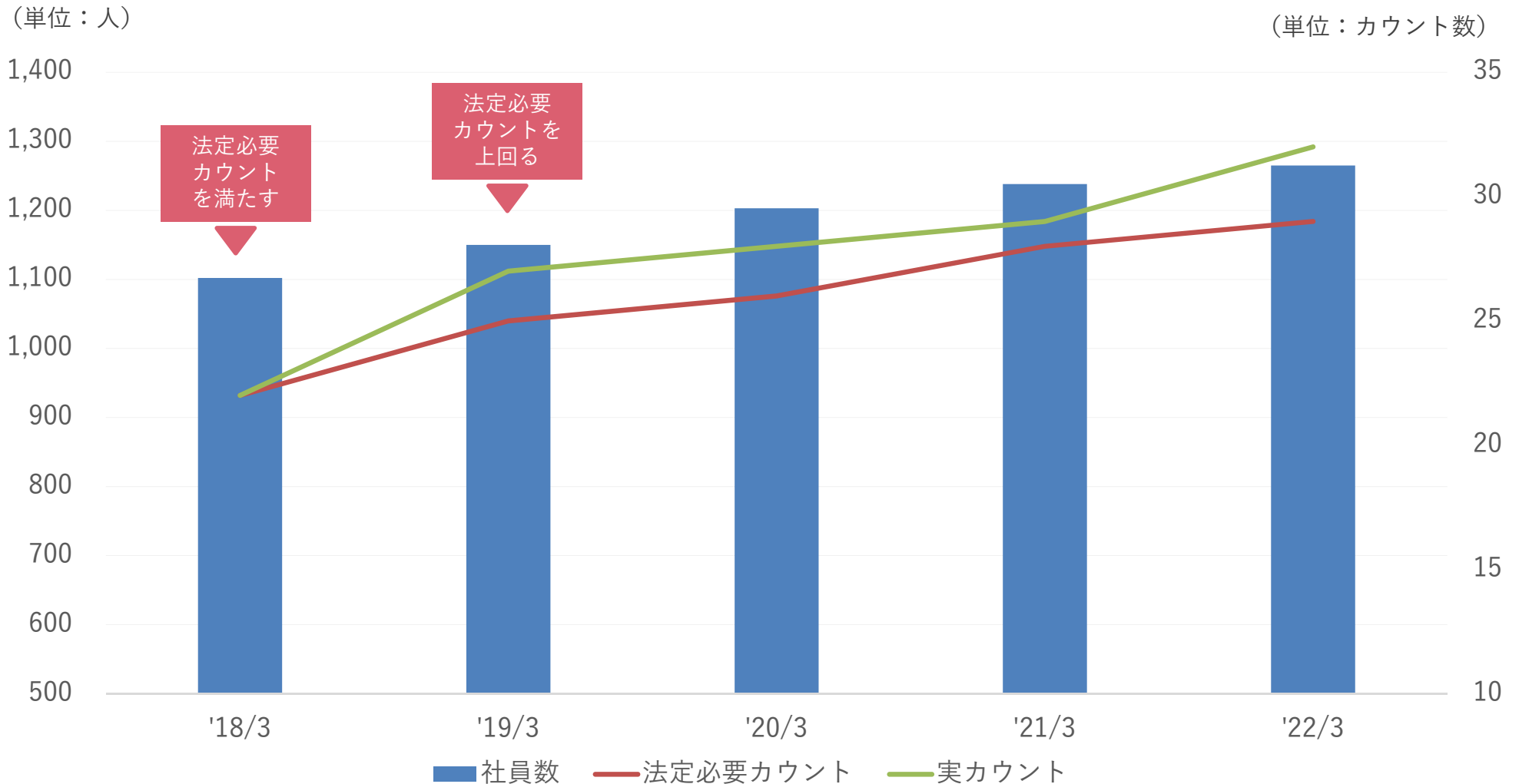
- ・・・若年層の女性を対象に、働き方などを伝え、キャリアプラン形成のサポートを実施。



えるぼし（女性活躍推進）

女性活躍推進法に基づく優良企業として「えるぼし認定」取得。

- 農業及び事務の職域開拓を図り、多くの障がい者が長く働ける環境を整備。
- 障がい者と働くことへの理解を促進する社内研修を実施し、受入れ体制を強化。



マスコットキャラクター 「ふくえさん」

フォーカスシステムズや情報システムの世界を
身近に感じて頂くよう

ビジネスのこと、従業員のこと、未来のこと・・・

ふくえさんを通してさまざまな情報を発信しています。



LINESTOREで検索!!

ふくえさん

